

寒冷地形談話会通信

2003年度1号 [2003年6月9日発行]

<http://www.geo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/>

- ◆寒冷地形談話会通信 2003年度第1号をお届けします。
- ◆事務局代表の交代がありました。前代表と補佐の皆様、ありがとうございました。
- ◆今回、引継にあわせてメーリングリスト登録と会員登録をチェックしましたところ、登録不備がいくつか発見されました。ご迷惑をおかけしました会員の方々にはあらためてお詫び申し上げます。
- ◆本号は日本地理学会での総会報告・決定事項、「前期例会」、「夏の学校」、「30周年記念事業」に関するお知らせが中心となっております。記事にもありますように、本年度からメール会員の会費を500円に、郵送会員の会費を1000円に値下げしました。学部生会員は昨年と同じく会費無料です。

編集：小松哲也・黒田真二郎

事務局：黒田真二郎・小松哲也・縫村崇行（都立大）、佐藤剛（千葉大）、澤田結基・橘美由紀・松岡直子（北海道大）、池田敦・阿部正洋（筑波大）、天井澤暁裕・近藤玲介・溝邊真彦（明治大）、福井幸太郎（国立極地研究所）

連絡先：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学大学院理学研究科地理学教室 寒冷地形談話会 代表 黒田真二郎
kanrei-jimukyoku@egroups.co.jp（事務局宛） Tel(代) 0426-77-1111 (内)3835 FAX 0426-77-2589（地理学科事務室）

会費振込：郵便振替 東京 00100-9-171342 寒冷地形談話会

【2003年度寒冷地形談話会総会（2002年度活動報告）】

日本地理学会 2003年度春季大会（東大）において総会が開かれました。総会では、事務局より2002年度活動状況の報告が行われ、また、今年度の活動方針に関する意見が交換されました。なお一部の議題につきましては、総会における審議で解決できなかったため、後日事務局で討議し方針を決定いたしました。（2003年5月7日に都立大にて会議。黒田、小松、縫村、佐藤、天井澤が出席。他の事務局員はメールにて事前会議。）

◆2002年度会務報告

- ・事務局業務を分散・担当校化する新体制の確立。
（千葉大：主管、筑波大：通信、明治大：会場、都立大：ML、北大：web）
- ・事務局運営会議を2回開催。
（5月：明治、2月：極研）
- ・現地討論会を開催。
（10月26-28日：白馬岳山麓、氷河作用研究グループと共催）
- ・例会を開催。
12月21日：第1回例会、
2月15日：卒論修論発表会（両日とも極研）
※12月例会の要旨は3月発送の通信に掲載
- ・談話会通信およびMLの発送。
通信は2回、MLは多数。
- ・新HPを立ち上げた。（北大サーバー）
- ・通信1号での2001年度会計報告ミスの指摘について → 印刷ミスで、内部監査では問題はなかった。

◆会計報告

収入

2001年度繰越金 : ￥ 390,730
2002年度会費 : ￥ 184,500
利子 : ￥ 10

支出

「通信」発送経費 : ￥ 21,350
発表者交通費補助 : ￥ 46,870
文具代 : ￥ 32,631
雑費 : ￥ 12,856

収入合計 : ￥ 575,240

支出合計 : ￥ 113,707

2003年度への繰越金 ￥ 461,533

◆2003 年度会務について

◇例会について

定期例会を 12 月と 2 月の第 2 土曜日に固定化する。

◇夏の学校について

「2003 年度、夏の学校を、氷河作用研究グループとの共催で立山にて行なう」という提案に対し次のような意見が出された。「2002 年度の共催実施の結果、氷河作用研究グループとしての討論がうすくなった」、「氷河作用研究グループのメンバーが定員からあふれた」、「寒冷地形談話会の夏の学校と氷河作用研究グループに現地討論会は本来別の性質のものであることから分けて行うべき」などの意見である。結果、この件については詳しい内容も含め後日、事務局で再検討することとなった。

〈事務局の決定方針〉

そもそも夏の学校および現地討論会が別々に行われた場合、マンパワーの減少・ブッキングが生じ巡検のレベル低下や参加者数が減るという近年の状況を鑑みての昨年度の試行であった。結果、総会では反対意見もみられたが巡検は近年まれにみる参加者数となり大盛況となった。よって、本年度の夏の学校も氷河作用研究グループとの共催という方針をとる。

◇運営会議について

円滑な事務運営をおこなうため事務局メンバーが 5 月及び 2 月に運営会議を開催する。

◇30 周年記念行事について

30 周年記念行事の開催については、「過去を振り返るとともに、若手会員が“未来への展望”と題して、講演するのはどうか」、「若手は本当に記念行事の開催を希望しているのか」という意見が大半をしめた。この件については、時期を 11~12 月の土曜日とし、若手を中心に据えた会にすることを基本方針として、開催するかどうかも含めて事務局で再検討することとなった。

〈事務局の決定方針〉

記念行事は開催することにし、準備は明治大学が担当する、会場は明治大学、懇親会会場は明治大学周辺とする。日程は、2003 年度 12 月定期例会の日（12 月 13 日）とし、例年おこなわれている 12 月定期例会は今年度はポスター発表とする。

◇事務局運営旅費および発表者旅費の補助について

学部生及び院生の例会発表者（ただし学振特別研究員や非常勤職にある者は除く）には所属機関または自宅から会場までの交通費の 5 割

（上限）を補助する。いかなる事情でも宿泊費は補助しない。会の資産状況によっては補助率を下げることもある。

遠隔地事務局メンバーが運営会議（5 月および 2 月を予定）に出席する際は 1 回 1 万円を限度に交通費を補助する。遠隔地とは本州島以外を指す。会の資産状況によっては補助率を下げることもある。

夏の学校の案内者にも旅費を支給する。

◇2003 年度会費改訂

2003 年度よりメール会員の会費を年 500 円に値下げする（2002 年度 1000 円）。納入方法については 2 年間一括納入などを検討する。なお、郵送会員は会費据え置き（1500 円）とする。この提案に対し、「郵送会員の年会費 1500 円は現状の年 2 回の通信費用として高すぎる。一律値下げすべき」という意見が出た。この件も含めて、会費については後日、事務局で再検討することになった。

〈事務局の決定方針〉

郵送会員の年会費は、会の資産に余裕があるので 500 円値下げして 1000 円とする。ただし会の資産状況によっては今後、会費の値上げをすることもある。

2003 年度のメール会員の年会費は 500 円であるが、500 円からの振り込みは手数料の無駄遣いであるので、2 年分まとめて 1000 円からの納入とする。なお、郵送会員の年会費も、同様の理由から 2 年分まとめて 2000 円からの納入とする。

また、一括してこの先何年分を納入することも可とする。

◇メーリングリストの管理について

都立大で管理している ML サーバーを外部業者の ML サーバーに移行する。

◇事務局体制の変更

事務局主管を東京都立大学（黒田真二郎会員）に移す。また、会務担当については、ML は都立大、会計は千葉大、HP は北大、郵送は筑波大とし、会場は明治大から国立極地研究所（NIPR）に移す予定とする。

〈事務局の決定方針〉

会場担当は、国立極地研究所（NIPR）の福井会員とし、明治大は 30 周年記念行事担当校とする。

【前期例会のお知らせ】

2003 年度前期例会を以下の日時・場所にておこないません。皆様のご参集をお待ちしております。

日時 : 7 月 5 日（土）13:30~

場所：国立極地研究所

◆発表者と演題は以下のとおりです。

- 1) 荻谷愛彦（千葉大学）・佐々木明彦（東北大学）：日本海側多雪高山で完新世に何がおこったかー地形・土壌を用いた景観形成史の復元

偽高山帯や残雪凹地など、日本海側多雪高山を特徴づける景観はいつ、どのように形成されたのだろうか？。グローバルな気候変化との関係は？。今日の景観は氷期の終焉とともに成立したわけではなく、過去1万年間にも様々な発達過程があったようにみえる。本発表では鳥海山、月山、飯豊山、守門岳、平標山、白馬岳などで行われた筆者らの研究といくつかの先行研究を取りあげ、現在までの解明点や今後の課題を紹介する。

- 2) 大丸裕武（森林総合研究所）：雪田土壌からの古環境復元

近年の研究の蓄積によって雪田土壌がかなり敏感に周囲の環境変化を記録する例があることが明らかになっている。今後の研究には、雪田土壌に記録されたシグナルを既知の気候変化と対比するというアプローチだけでなく、どのようなメカニズムで雪田土壌が周囲の環境変化を記録するのか、という知見が不可欠になると演者は考えている。そのための方法論について議論を提起したい。

【2003年度夏の学校のご案内（第1報）】

2003年度の「夏の学校」は、氷河作用研究グループとの共催で立山にておこなわれます。以下に、その日程・場所・案内者・テーマを記します。なお、詳しい内容や申し込み期限などにつきましては、決定次第、通信第2号やML、寒冷地形談話会HP上にて報告させていただきます。

日程：8月17日（日）～19日（火）

案内者：縫村崇行（都立大）・荻谷愛彦（千葉大）・岩田修二（都立大）

場所：立山（室堂周辺および御山谷の上中流部）

巡検のテーマ：「氷河地形と火山：火山噴出物による影響と編年」

立山の主脈には典型的な氷河地形が分布し、一方その西側には立山火山が存在している。氷河が存在していた最終氷期においても火山活動があったことがわかっており、火山噴出物の時代は明らかになってきている。しかしながら、氷成堆積物の認定、氷河前進期の時代、火山の影響、氷河末端の範囲、谷頭部を欠く氷食谷などの検討すべき問題が残っている。そこで今回の巡検では、立山の室堂周辺において川澄

（2000）によって氷成堆積物・融氷流堆積物であると判断された堆積物の観察を行い、その成因や時代について現地で討論する。御山谷では谷頭部を切られた氷食谷や、立山期のモレーンを覆うAT火山灰などを見学する。

【30周年記念講演のお知らせ（第1報）】

◆寒冷地形談話会の理念と30周年記念講演開催について

寒冷地形談話会は、寒冷気候下で形成される地形の研究をおこなう研究グループで、他大学の氷河・周氷河地形研究者との交流のみならず、従来の地形学の枠に捉われない隣接分野の研究者との活発な学際的交流の必要性から、1971年11月に9名の発起人（五百沢智也、岩田修二、小野有五、小疇尚、小泉武栄、清水文健、平川一臣、野上道男、柳林実）のもと発足しました。現在、会員は160名を越え、会員の研究分野も、地形学、雪氷学、地生態学、生態学など多岐にわたり、活発な研究活動が続けられております。

また、当会は10年を節目として、記念行事をおこなってきました。1982年の10周年記念では雑誌「地理」紙上で特集を組み、1992年の20周年記念では古今書院から「山の自然学入門」の記念刊行とともに記念講演をおこないました。30周年を迎えた2002年には期せずして、寒冷地形談話会メンバーが中心となり「百名山の自然学」が古今書院より刊行されました。これは、この10年の間に進んだ研究の成果の一端を示すものといえます。そこで談話会では、こうした研究成果のまとめと今後の展望をにらんで、“過去の総括と未来への飛躍”をテーマに30周年記念講演を催すことを決定いたしました。

◆30周年記念講演の方針

30周年記念講演の方針のひとつである“過去の総括”，という観点から発足発起人の方々に会の発足当時の雰囲気や目的、「寒冷地形談話会や寒冷地域の自然研究の今後を担う若手研究者や学生に継承しておきたいこと、研究面で望むこと」を語っていただく予定です。

一方、30-50歳代のポスドク～シニア研究者にはもうひとつの方針である“未来への飛躍”という観点から、研究最前線の話題や今後の研究展望、若手への希望・期待などを語っていただき、併せてポスター発表をおこなう予定です。

また、今後も世代・学際を超えた活発な交流によって会が発展することを期待して、講演会の後に懇親会を設ける予定です。

◆30周年記念講演のご案内

30周年記念講演は、12月定期例会と併せて12月13日に明治大学にて開催します。(12月定期例会は、ポスター発表となります。)記念講演の詳しいプログラムはまだ決定していませんが、決まり次第通信第2号やML、寒冷地形談話会HPにて報告させていただきます。また、有意義な記念講演としたいと思いますので、アイデア等ございましたら事務局までご意見などお寄せください。

【事務局代表メールアドレス】

寒冷地形談話会事務局では今年度より事務局代表メールアドレスを作成しました。ご意見やご希望・入退会や名簿内容の変更・アドレス変更などを一括して受け付けております。

kanrei-jimukyoku@egroups.co.jp

事務局員全てに周知されますので事務にかかわることはすべてこちらのアドレスによるしくお願いいたします。

【会費変更のお知らせ】

本年度からは、メール会員は年間500円、郵送会員は年間1000円を納入していただくことになりました。また、今年度よりメール会員・郵送会員ともに、振込みの効率から2年単位の納入方式となりました。なお、メール会員、郵送会員ともに多年度の一括納入が可能となります。

【会費納入のお願い】

会員の皆様、平成15年度および16年度会費の納入をお願いします。会費の内容と、納入方法は以下のようにしております。

1. 会員会費 (2年分一括)

メール会員 1000円

郵送会員 2000円

2. 会費の納入方法

6月中に郵便振込用紙を送付しますので、お近くの郵便局で払い込みして下さいをお願いします。

(※平成15年度・16年度分の会費を既に納入されている会員には送付されません。)

【卒論・修士論会要旨集完成のお知らせ】

2003年2月15日、国立極地研究所にて開催されました卒論・修士論文大会の発表要旨集が完成しました。寒冷地形談話会公式HPにて閲覧・ダウンロード可能となっております。ぜひ、ご覧ください。

【名誉会員戸谷洋先生をしのんで】

寒冷地形談話会の戸谷洋名誉会員が昨年(2002年)逝去されました。先生のご逝去を惜しみ、岩田修二会員が追悼文を寄せて下さいました。

◆戸谷 洋先生のご逝去を悼む

寒冷地形談話会の特別会員、東京都立大学名誉教授、戸谷 洋先生は、昨年(2002年)12月6日脳梗塞のため永眠された。享年79歳。

先生は学生時代から山岳部で活躍され、都立大助手時代には第1次南極観測隊に参加された。1956年1月のオングル島偵察犬ぞり隊では、渡辺兵力、村山雅美、田 英夫、佐伯英治などの山屋隊員とともに活躍された。オングル島近くのキャンプから「ヒョウゲ ンノテントカラマゴ コロヲオクル」トヤという奥さんへの電報は、南極からの最初の私用電報であった。その後、アフリカの学術調査を重ねられ、ケニヤ山でも高山病になったことがないというのがご自慢だった。学生の登山や探検活動を支援してくださり、卒業生にはヒマラヤや東南アジアの山岳地帯で修論・卒論を書いたものが少なからずいる。地平線会議や早稲田大学探検部の若者もお世話になっていた。

寒冷地形談話会には創設当初からご支援をいただいた。1970年代の白馬岳の共同調査では、科学研究費の研究代表者を務められ、1976年夏の共同調査にも参加され、悪天候続きの雪倉岳の避難小屋での生活を経験された。大雪山でおこなわれた夏の学校では白雲岳の山小屋で数日過ごされた。

先生のご専門は、最初は地形学で関東ローム層の研究で業績を挙げられたが、その後、アフリカの地誌学研究に取り組みされた。地生態学がお好きで、岩石の名前や高山植物の種名などにも精通されていた。

在りし日のやさしい笑顔を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。(岩田修二)

【通信・メールリングリストへの投稿募集中!!】

◆メールリングリストへの参加・投稿のお誘い

kanreichikei-ml@egroups.co.jp

寒冷地形談話会MLのアドレスが2003年5月9日から上記のアドレスに変更となりました。

メール会員に登録すると誰でもMLへ投稿でき、メンバーからの投稿も受信できるため、情報収集にはMLの活用が有効です。会費も年間500円安くなります。

MLへの投稿は巡検・集会案内、新刊紹介、露頭や海外の情報、公募情報、会員への意見など何で

も結構ですので、ぜひご利用ください。なお、システムの性質上、添付ファイルは使えなくなっておりますのでご了承下さい。

従来どおり「寒冷地形談話会通信（郵送版）」への投稿もおまちしております。

◆公式 web site について

当会は公式 web site を開設しています。URL は、<http://www.geo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/> です。管理は事務局（北海道大）で行っていますが、内容は会員からの投稿にもとづき更新されます。web は会員以外も閲覧できるメリットを活かし、ML 以外に広く宣伝したい記事・話題の投稿をお待ちしています。文章はテキスト形式で、画像は圧縮した GIF や JPEG 形式で担当者（澤田：jury@ees.hokudai.ac.jp）にお送り下さい。また、露頭・氷河地形・周氷河地形などに関する写真・スケッチ・解釈などの投稿が、年間に何本もあった場合は、年度末にまとめたものを発行したいと考えています（担当：小松）。よろしくお祈りします。

【新会員募集中!!】

新規加入申し込み者は、1) 氏名(フリガナ) 2) 氏名(漢字) 3) 住所 4) TEL 5) FAX 6) メールアドレス 7) 所属、を記入した電子メールを事務局 (kanrei-jimukyoku@egroup.co.jp) にお送り下さい。なお、学部生以下の会員年会費（メール会員）は無料となっています。

【各種会議のお知らせ】

- ◆日本第四紀学会大会
日程：8月29・30・31日
(野外見学会は9月1日)
大会会場：大阪市立自然史博物館
備考：シンポジウムや普及講演会、野外見学会（大阪平野など）あり。
(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/>)
- ◆日本地理学会大会
日程：10月18～21日
大会会場：岡山大学
備考：巡検先は現在検討中。
(http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/home_J.html)
- ◆日本地形学連合大会
日程：9月23・24日
大会会場：ヴィラ北軽井沢エルウィング
備考：シンポジウム、巡検（浅間山山麓）あり。
(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgu/>)
- ◆日本地すべり学会、第42回研究発表会および現地見学会
日程：8月19～22日

大会会場：国際会議場大手町フォーラム（富山市）

備考：県民講演会や研究発表会、意見交換会、現地見学会（立山方面など3コース）あり。

(<http://japan.landslide-soc.org/>)

◆歴史地震研究会集会

日程：9月5・6・7日

大会会場：5日は千葉県佐倉市歴史民族博物館。
6日は九十九里市中央公民館。

備考：巡検（千倉の海岸段丘など）あり

(http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/Shiryu.html)

◆国際第四紀学会 INQUA 会議

日程：7月23～30日

開催地：Reno Hilton Resort Center, Reno, Nevada

(<http://inqua2003.dri.edu>)

◆国際永久凍土 IPA 会議

日程：7月21～25日

開催地：Zurich, Swiss

(<http://www.geo.unizh.ch:8080/icop/main.jsp>)

【編集雑記】

新事務局メンバーの紹介です。1) 興味を持っている分野・研究テーマ、研究に携わるようになった動機 etc, 2) メールアドレス、となっています。

◆東京都立大学（主管・ML・夏の学校担当）

◇黒田真二郎（くろだ しんじろう）：D1

1) 高山環境・環境変遷・斜面変化・高山土壌などに興味をもっています。高校山岳部時代の山への探求心が、今の活動の原動力となっています。

2) kuroda@mail.ne.jp

◇小松哲也（こまつ てつや）：M1

1) 大学3年時の巡検で木曾駒ヶ岳に登って以来、山の魅力に取り憑かれました。高山環境すべてに興味があります。今年一年、通信を充実させるべくがんばりますのでよろしくお願いします。

2) komatsu-tetsuya@c.metro-u.ac.jp

◇縫村崇行（ぬいむら たかゆき）：M1

1) 氷河地形：小学生の頃から登山をはじめ、次第に山岳地形に興味を持つようになり、高山地形である氷河地形の研究を始める。

2) taka-nuimura@nifty.com

◆千葉大学（会計担当）

◇佐藤剛（さとう ごう）：D2

1) 山地斜面の地形発達に興味があります。現在、飛騨山脈北部に分布する地すべり地形の発達過程を調査中です。氷河の解氷後、地すべりによる地形変化がどのようになされてきたか調べることも研究のテーマです。どうぞ宜しくお願いします。

2) gsato@earth2.s.chiba-u.ac.jp

◆筑波大学（通信発送担当）

◇阿部正洋（あべ まさひろ）：M1

1) 研究テーマ：氷食谷での応力解放に伴う地形変化
動機：氷河・周氷河地形（寒いところ）に特に興味があったため。

2) masabe@atm.geo.tsukuba.ac.jp

◇池田 敦（いけだ あつし）：D3

1) 興味のある分野は地形学とその関連領域です。岩石氷河の挙動について研究しています。

2) aikeda@atm.geo.tsukuba.ac.jp

◆北海道大学（HP 担当）

◇澤田結基（さわだ ゆうき）：D3

1) 岩塊斜面の点状的永久凍土の形成・保存メカニズムを研究しています。研究集会の情報、山の面白いお話などなど、掲示板を会員交流の場としてご利用ください。

2) jury@ees.hokudai.ac.jp

◇橘 美由紀（たちばな みゆき）：M1

1) 高山植物に興味を持ち、北海道の高山植生と地形との関連性について研究を進めたいと考えています。宜しくお願い致します。

2) miyukit@ees.hokudai.ac.jp

◇松岡直子（まつおか なおこ）：M1

1) 北アルプスの薬師岳カールが好きで、氷河地形を学ぶことを決意する。学部時代には地質学を専攻していたので氷河堆積物の構造解析にも取り組み、日高山脈の古環境を復元したい。

2) matsuoka@ees.hokudai.ac.jp

◆明治大学（30周年記念事業担当）

◇天井澤暁裕（あまいざわ あきひろ）：D3

1) 氷河・周氷河地形に興味を持ち、先輩方とのご縁から大雪山の古環境変遷や根室半島

でアースハンモックに関して取り組んでおります。30周年記念事業を有意義なものにしていきたいので、アドバイス等ございましたらよろしくお願ひいたします。

2) amaizawa@kisc.meiji.ac.jp

◇溝辺貴彦（みぞべ たかひこ）：M2

1) 研究テーマは『東北日本，日本海側多雪山地の氷河地形』で、フィールドは飯豊山地です。この分野に興味を持ったきっかけは、小さい頃から山の中で育ったのと学部時代に長谷川裕彦大先輩に出会った事でしょう。

2) taka_sr78@hotmail.com

◆国立極地研究所（会場担当）

◇福井幸太郎（ふくい こうたろう）

1) 博士論文では飛騨山脈での山岳永久凍土の分布や形成維持機構について研究を行いました。最近では南極半島やロシア，アルタイ山脈で岩石氷河やデブリカバー氷河の動態を研究しています。

2) fukui@pmg.nipr.ac.jp